

[科学ジャーナリスト大賞]受賞

コペルニクスやガリレイ、ニュートン、アインシュタイン、ダーウィンなど
世界を一変させた発見や科学技術の初版本およそ 130 冊が福岡へ

**[世界を変えた書物]展福岡展
報道関係者先行取材のご案内**

JR九州ホール(JR博多シティ 9階)
令和元年9月12日(木) 14時~16時30分

金沢工業大学は、コペルニクスやガリレイ、ニュートン、アインシュタイン、ダーウィンなど、世界を一変させた発見や科学技術に関する初版本約 130 冊を展示する[世界を変えた書物]展を、令和元年9月13日(金)から9月29日(日)まで、JR九州ホール(福岡市博多区博多駅中央街1-1)で開催いたします。入場料は無料。カメラの持ち込みもOKです。

金沢工業大学では収集した西暦 1445 年頃とされるグーテンベルクによる活版印刷術発明後に出版された科学技術に関する原典初版本 2000 点を体系的に収集しています。本展覧会ではこのコレクションから選りすぐられた初版本およそ 130 冊を中・高校生も含めた市民の皆様にご覧いただくことと企画したもので、九州地区での開催は今回が初めてとなります。

空間デザインは金沢工業大学建築学部の宮下研究室の大学院生・学部生が担当し、書物同士の間連性がわかるような空間構成を練り上げました。

一般公開に先立ち 2019 年 9 月 12 日(木)14時から 16時30分まで、報道関係者の皆様へ向けた先行取材を開催いたします。

ご多用中とは存じますが、ぜひご参加頂けますようお願い申し上げます。

[世界を変えた書物]展福岡展先行取材のご案内

開催日時: 2019年9月12日(木)14:00~16:30

場所: JR九州ホール (JR博多シティ9階)

※事前申込は必要ございません。

当日について: 受付がございますので、受付でお名刺をお渡してください。

基本的に自由に会場を見て頂きます。会場には展示プランを考案した学生や担当教員がいます。

お問い合わせ: 金沢工業大学企画部広報課 新田光子

電話 076-246-4784

[世界を変えた書物]展福岡展について

この展覧会は金沢工業大学が“工学”の観点から、科学的発見、技術的発明の原典初版を収集した「工学の曙文庫」の初版本を、広く一般に紹介することを目的に企画されました。

ご来場の皆様が書物と出逢い、興味を抱きかつ理解しやすくするための展示の根幹を担ったのが金沢工業大学の大学院生・学部生たちです。2000点の中から展示する書物を厳選し、それらの書物同士の関係性がひと目でわかるような空間デザインを、担当教授とともに練り上げていきました。



これまでに、金沢 21 世紀美術館 (2012 年) と名古屋市科学館 (2013 年)、グランフロント大阪 (2015 年)、上野の森美術館 (2018 年) で開催し、およそ 17 万人の方々にご覧いただきました。また、2018 年上野の森美術館で開催された東京展は日本科学技術ジャーナリスト会議が科学技術に関する報道や出版、映像などで優れた成果をあげた人や団体を表彰する科学ジャーナリスト賞 2019 年大賞を展示企画作品として初めて受賞しました。

期間： 2019 年 9 月 13 日 (金) ~ 29 日 (日) 会期中無休

10:00 ~ 19:00 (入館は閉館の 30 分前まで)

会場： JR 九州ホール (JR 博多シティ 9 階)

入場料： 無料

「知の壁」THE WALL OF WISDOM



旅のはじまりは、圧倒的な「書物の壁」との出会いからはじまります。

現代の電子図書からさかのぼり、中世のゲーテンベルグによる印刷機の発明まで、書物の歴史を辿ります。アインシュタインの自筆研究ノートやマリーキュリーの自筆署名、エディソンの自筆メモなども展示されています。

「知の壁」展示イメージ

「知の森」THE FOREST OF WISDOM



科学的発見、技術的発明は常に先人の成果に関連しながら、次の新たな「ひらめき」や「発見」へと、「知の連鎖」を繰り返し、人類の文化を前進させてきました。科学の結びつきを体感するとともに原書の魅力を感じとってください。

また、今回福岡展では、特別出品として、チャールス・ダーウィン「種の起源」(1859年)、ワトソン&クリック「核酸の分子的構造」(1953年)、NASA「アポロ11号任務記録(月着陸交信記録)」なども展示します。

「知の森」展示イメージ

出展書籍(一例)

イシドール(570-636頃)「語源学」1472年、初版

本展出品物のなかで、もっとも古い書籍。科学及び技術用語を含む術語を解説した、一種の百科全書。自然科学の記述がある書物としては最古の部類に属す。イシドールは6世紀の人で、この書物を書くことによって、失われて行く古代の科学技術知識を保存し中世に伝える役目を果たした。数学、天文学、解剖学、地学、鉱物学、工学、建築学、農学、気象学などの古代科学技術の貴重な概説を含んでいる。



ニコラス・コペルニクス(1473-1543)

「天球の回転について」ニュールンベルク, 1543年, 初版

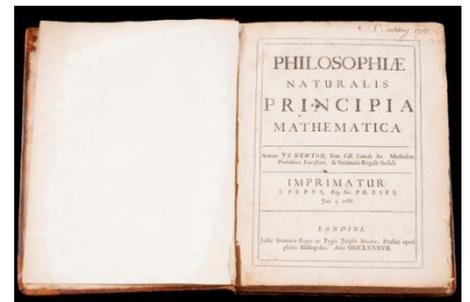
「地動説」という太陽系モデルを確立した科学技術上最大の書物。プトレマイオス「天動説」が実際の観測結果と合わなくなり、コペルニクスは古代ギリシアのアリスタルコスの唱えた太陽中心説に着目したのである。この後、ケプラーが惑星の楕円軌道を、ニュートンが引力の法則を発見して、その正しさが証明された。



アイザック・ニュートン(1642-1727)

「自然哲学の数学的的原理(プリンキピア)」ロンドン, 1687年, 初版

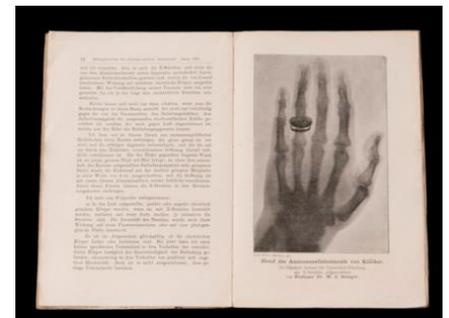
ニュートンは、本書で新しい宇宙観、宇宙の新しい「パラダイム」を作り上げた。地動説の力学的証明である。第一巻では有名なニュートンの三法則、慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則を提示。第二巻では流体力学を論じ、第三巻はニュートン最大の業績である万有引力論が発表されている。



ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン(1845-1923).

「新種の放射線について」, ヴュルツブルク, 1895-1896年, 初版

1895年秋、ヴュルツブルグ大学物理学教授レントゲンはクルックス管を用いて陰極線の実験をしていた。その際、紙に包んだクルックス管から2mも離れた所に置いてあったシアノ白金酸バリウムを塗った紙が蛍光を発しているのを発見した。彼はこの蛍光を生じさせた放射線をX線と名付け、基本的性質を確かめた。本書はこの発見の第一報と第二報であり、講演報告をまとめたもので、最初のレントゲン写真の公表でもあった。



詳細については、世界を変えた書物展ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shomotu/index.html>